

インタビュー

avatarin(株)
代表取締役CEO

深堀 昂氏



avatarin(株) (アバターイン、東京都中央区) は、エアライン大手のANAホールディングス発のスタートアップ企業として、AIやロボティクスなどの先端テクノロジーを用いた「世界最大の人助けネットワーク」の構築に取り組んでいる。そのなかで人間らしい共感や気遣いが可能な業界特化型AIモデルなどを開発しており、対面コミュニケーション

が求められる業種での様々な実証が進んでいる。今回、代表取締役CEOの深堀昂氏に話を伺った。

先端技術で案内や接客など支援

——現在の取り組みから伺います。

深堀 ANAホールディングス発のスタートアップ企業として、AIやロボティクスなどの先端テクノロジーを用いた「世界最大の人助けネットワーク」の構築を目指している。そのなかで現在、テキ

スト、画像、音声、動画、センサー情報など、複数の異なる種類のデータを統合して処理するマルチモーダル型のAIエージェントやAIモジュールの開発を主体に進めており、深いプロフェッショナルの知識を持ち、人間らしい共感や気遣いが可能な業界特化型AIモデルの実現に取り組んでいる。

像の処理はC社のAIなど、複数のAIを組み合わせているケースが多く、顧客接点が増えたり、深いプロフェッショナルの知識を持ち、人間らしい共感や気遣いが可能な業界特化型AIモデルの実現に取り組んでいる。

「newme」も自社で開発し、移動しながらコミュニケーションをとるミニエージェントと、newmeに続く新しいロボットの開発を進めている。なお、newmeには、大容量の映像、音声、制御データなどをインターネット経由で超低遅延かつ高速伝送できる独自のシステムモジュール「avatarcore」(アバターコア)が搭載されている。当社のハードウェア、ソフトウェア、クラウド、AIなどに関する技術を組み合わせたもので、様々なロボットやモビリティに搭載することができ、そのため、用途に最適なロボットやモビリティ



newmeが太田区役所で案内を行っている様子

があれば、avatarcoreを搭載することでソリューションへと統合できる。

——その特徴について教えてください。

深堀 現在は属人化や暗黙知化しがちな対面コミュニケーションの領域を主戦場としている。近年、コミュニケーションが求められる現場でもAIの活用が進み始めているが、ウェアからの問い合わせメールなどのテキスト処理はA社のAI、コールセンターなどの音声処理はB社のAI、映

AIと有人対応に適切に振り分けるなどしてタイムリーに回答することができる。

——AIの周辺技術も持たれていますね。

深堀 リアルタイムのコミュニケーションやAI化を可能とするファインチューニングなどにも迅速に対応できる。また、移動機能を有するアバ

「ワインインテリジェンス」を重視

——活用事例について。

深堀 ANAホールディングス発のスタートアップ企業というところもあり、空港での実証をこれまでに多く行っており、2025年は新千歳空港、旭川空港、北九州空港などでnewmeを活用した案内業務の実証を行った。また、24年にヤ

ける案内など、人手不足かつ高いコミュニケーション能力が求められる業種・業務を中心に実証を行ってきた。こうした取り組みのうち、空港関連は本格活用に向けて進みつつある。

——今後の方針をお聞かせ下さい。

深堀 様々な企業や業種におけるAI化において、

て、「ワインインテリジェンス」の実現を支援する企業となっていきたいと考えており、AIだけでなくクラウドやロボットも含めて総合的にノウハウを有する会社は非常に少なく、その強みを発揮していきたい。AI技術が急速に進化するなか、ここからの数年間が人類史の視点でも大きな分岐点になる可能性があると思う。

当社としては、マルチモーダル型のAIエージェントを提供することはもちろんだが、AI化する業務をそれまで行ってきた方々が新たな形で貢献できる仕組みもセットで提案することを大事にしていきたい。また、こうしたマルチモーダル型のAIエージェントは、日本だけでなく、グローバルで重要になるとみており、26年から海外展開についても本格的に進めていきたい。

(聞き手・副編集長 浮島哲志)